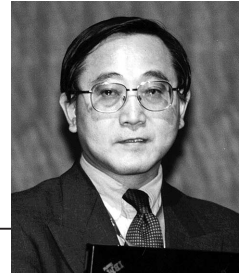


医療ジャーナリストが評価する高齢社会を支えるヘルスケアネットワーク —日・米・英・豪の痴呆ケアネットワーク調査比較



医療ジャーナリスト懇話会幹事・(株)日本医事新報社 情報広告課 室長 野沢 俊一

【スライド-1】

「医療ジャーナリストが評価する高齢社会を支えるヘルスケアネットワーク」というテーマで報告させていただきます。「評価する」とは非常におこがましいのですが、お許しください。

スライド1

医療ジャーナリストが評価する高齢社会を支えるヘルスケアネットワーク —日・米・英・豪の痴呆ケアネットワーク調査比較—

医療ジャーナリス懇話会幹事
野沢 俊一(日本医事新報社)
2002年11月9日
ファイザーヘルスリサーチフォーラム

【スライド-2】

私どもの医療ジャーナリスト懇話会という会を、まずご紹介します。月1回の割合で開催している医学・医療ジャーナリストの自主的な勉強会です。1983年設立以来20年間近くにわたり、講師の先生方をお呼びして、意見交換をしてきた手弁当の会です。

この会のメンバーの有志で、今回の調査を行いました。

日本側はスライドに記載した方々。米国側のAzusa Tomaさんというのは元日経メディカルの記者です。それに、ハワイ州の家庭医のDr. Andrew Tenhaveさんを入れたチームで手分けして、アメリカ、イギリス、オーストラリア、日本の高齢社会を支えるヘルスケアネットワークについて、主にアルツハイマー協会の活動を取材しました。

スライド2

共同研究者

- 代表研究者: 野沢俊一(医療ジャーナリスト懇話会幹事)
- 共同研究者:
 - 丸木一成(読売新聞社医療情報部長)
 - 杉元順子(医療ジャーナリスト)
 - 吉野晶雄(厚生科学研究所代表取締役)
- 米国側共同研究者:
 - Azusa Toma(Honolulu Health Research)
 - Dr. Andrew Tenhave.,MD(ハワイ州家庭医)

【スライド-3】

本調査研究の概要です。

痴呆患者のケアは高齢化先進国共通の問題となっています。そして、痴呆患者の家族の社会的負担等は増大しています。そこで4ヶ国の痴呆ケアネットワークの現状、具体的には各国のアルツハイマー協会の活動および関連の施設を調査しました。

スライド3

本調査研究の概要

痴呆患者のケアは高齢化先進国共通の問題

痴呆患者の家族の社会・経済的負担は増大

日・米・英・豪の痴呆ケアネットワークの現状を調査

各国のアルツハイマー病協会を取材

【スライド-4】

調査の結論です。

痴呆患者さんに対しては、やはり家族、友人が支えることに尽きるのではないかと思います。

写真は、アメリカのアルツハイマー協会のハワイ支部が行っている寄付集めのイベント「メモリーウォーク」に参加されたお二人です。Maryさんというアルツハイマー病に罹患された患者さんのお友達が、このお二人なのですが、「メモリーウォーク」に参加されて、全米の同じMaryという名前の痴呆になられた方々を想いながら、こうしたボードを掲げています。

【スライド-5】

まず、アメリカの現状ですが、アメリカのアルツハイマー協会は1980年に発足しました。この協会は全国に200の支部を持ち、予算もかなり多く、痴呆研究を行っている研究者などに対して、アルツハイマーの民間団体としては最高額の約1億2000万ドルの助成を行っています。

ちなみに、このアルツハイマー協会のホームページのアドレスはスライドに記載したとおりです。

【スライド-6】

この米国のアルツハイマー協会は、この通り色々なサービスを提供しています。

なお、Safe Returnというのは、行方不明になった痴呆の患者さんを探すことができる、エレクトロニクスを活用した探索システムです。

【スライド-7】

アルツハイマーのアメリカの現状ですが、全米で約400万人。2050年までに1400万人に増加すると予想されています。65歳以上の10人に1人、85歳以上の約半数がアルツ

スライド4

結論：家族・友人で支えること



2001年9月8日ホノルル「メモリーウォーク」より

スライド5

米国アルツハイマー病協会

- 1980年、患者の家族がもとになって発足。
- 米国最大のアルツハイマー病患者とその家族の支援組織。
- 本部はシカゴ、全国に約200の支部。
- アルツハイマーの原因と治療、また予防に関する研究に対して、民間団体として最高額の約1億2000万ドルの助成を行っている。
- www.alz.org

スライド6

協会の提供するサービス

- Safe Return: アルツハイマーの患者が、行方不明になってしまった時のための、全国レベルの検索システム。
- 各地域における、デイケアセンターなどのサポートプログラム。
- 24時間対応の電話相談サービス(英語、スペイン語などで対応)。
- パンフレット、ビデオ、その他の患者・家族向け情報ツールの配布
ーなど

スライド7

米国におけるアルツハイマー病の現状

- 全米で約400万人
- 2050年まで全米で1400万人に増加と予測
- 65歳以上の10人に1人、85歳以上の約半数が、アルツハイマー病

ハイマー患者さんと言われています。

【スライド-8】

それに伴って、医療費もこのように増大し、メディケア、メディケイドの財政に大きな影響を与えています。

【スライド-9】

写真は、アルツハイマー協会が毎年7月に開催している学会です。患者さんと家族が主体となった学会で、かなりの規模で、毎年シカゴで開催しています。これは、私どものアメリカ側の共同研究者が取材したものです。

【スライド-10】

今回（2001年7月）の学会のトピックスです。

アルツハイマー病と倫理的なジレンマ、等々ですが、非常に面白いのが、痴呆ケア施設における倫理的ガイドライン、セックスの問題にどう取り組むといったものもあります。日本の施設でもセックスの問題が問題になっていますが。それと、戦いをせずに入浴させる方法など、家族のためにいろいろな情報を、この学会で提供してくれます。

【スライド-11】

これは、抱きかかえると痴呆患者さんのストレスを癒してくれるというぬいぐるみだそう

スライド8

アルツハイマー病による医療費の増大

- 2000年に公的医療保険メディケアとメディケイドがアルツハイマー病治療に使った費用は、それぞれ319億ドルと182億ドル。
- 2010年までに、約1.55倍に増えると予測。
- アルツハイマー病の介護に使われる費用は、年間で1000億ドル。メディケアをはじめ、医療保険では、必要な介護費用の大部分が支払われない。

スライド9

第10回全米アルツハイマー教育学会
(2001年7月シカゴで開催)



学会受付風景

スライド10

今回の学会のトピックス

- アルツハイマー病と倫理的なジレンマ。
- 一人暮らしを強いられるアルツハイマー患者にまつわる問題。
- 介護者に対するケア。
- 痴呆ケア施設の倫理的ガイドライン(セックスなどの問題にどう取り組むか)。
- “戦い”をせずに入浴させる方法。
- 長期介護施設の人員数の改善:果たして現実的か? —など。

スライド11

商品展示:痴呆患者のストレス癒す縫いぐるみ



です。こういう商品展示までも行っています。

【スライド-12】

写真は痴呆の治療薬についての情報コーナーで、たまたまそれをご覧になっているドクターです。

【スライド-13】

先ほど申し上げた、アメリカのアルツハイマー協会のホノルル支部が毎年9月の始めに行っているメモリーウォークの写真です。ホノルルマラソンと似たようなものですが、寄付集めをするイベントです。

【スライド-14】

メモリーウォークの目的はファンドレイジング（寄付集め）です。参加者は5kmを走っても歩いてもゴールに辿り着けば良い。参加費は20ドルで、当日参加は30ドルということです。お金を払えば協会のTシャツがもらえるそうです。このメモリーウォークには、ワイキキの有名なブランド店などが、自社のTシャツを着て、そのブランドの宣伝をしながら参加し、なおかつ協会の方に寄付をしたり、人的に支援を行ったり、レストランだったら食事を提供したりと、ホノルル市の企業がサポートしているイベントです。

【スライド-15】

先ほど説明したように、友だちのMaryを想って、このように「Mary」と書いた旗を掲げながら、アルツハイマーの患者さんのために走ったお二人の写真です。

【スライド-16】

次に英国の調査です。

英国は、全人口6500万人のうち痴呆患者さんは現在70万人ですが、15年後は100万人へと増加が予想されます。現状としては、

スライド12



スライド13



スライド14

メモリーウォークの目的

- ・ 全米アルツハイマー病協会の主催する、ファンドレイジング（寄付集め）。
- ・ 参加者は5kmの行程を走っても、歩いてもゴールにたどり着けば良い。
- ・ 参加費用は、事前登録20ドル、当日参加は30ドル。参加者には全員、協会のTシャツが配布。
- ・ ワイキキの有名ブランド店、サルバドール・フェラガモやMcInerneyなども、自社のTシャツを着た多くの従業員が参加し、レースを支援。

スライド15

家族・友人で痴呆患者を想い支える

・ アルツハイマー病を発症してしまった友人、Maryを想い、『Mary』と書いた旗を掲げながら「全米のMaryという名前のアルツハイマー患者のために走りました」と語る人。

最終的にはナーシングホームのお世話になる高齢者が増加していますが、ナーシングホームに入居するには経済的負担が大きく、社会問題化しています。負担できない高齢者には、家財を売却することが強制されているという協会の方のお話しでした。そのため、費用の安い施設に移らざるを得ないなど、問題は深刻になっています。

【スライド-17、18】

この協会はヨーロッパ最大の協会であり、国際アルツハイマー協会の本部も同じロンドンの市内にあって、協力して活動を行っています。

協会が提供するサービスは、まずデイケアサービスで、全国30カ所のデイケアセンターを運営しているということが特色です。このデイケアセンターについては、後ほどご紹介します。それとインターネットによる情報サービス、電話相談（ヘルプラインと呼ばれています）です。

【スライド-19】

この協会の事務局長さんは「DEMEN-TIA」という本を出され、日本の医書出版社から翻訳本が出ているなど、結構日本の高齢者ケア関係者の間で有名な方です。

【スライド-20】

これは協会の内部です。

スライド19



スライド16

英国におけるアルツハイマー病の現状

- ・ 現在約70万人の痴呆患者（全英人口は6500万人）
- ・ 15年後には100万人に増加が予想される。
- ・ 家庭環境や病状の変化に伴い在宅ケアが次第に困難になり、最終的にはナーシングホームの世話になる高齢者が増加。
- ・ しかし、ナーシングホームに入居するには経済的負担が大きく、社会問題となっている。特に負担できない高齢者には、まず家財を売却することが強制される。次により安い施設へ移らざるを得なくなるなど問題は深刻だ。

スライド17

英国アルツハイマー病協会

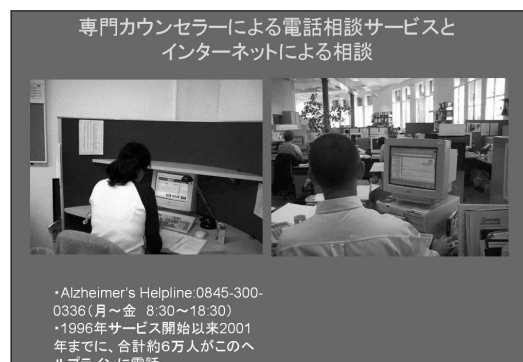
- ・ 2万5000人の会員を抱えるヨーロッパ最大のアルツハイマー病患者とその家族の支援組織。
- ・ 全英で訪問サービス部門を30カ所、デイサービスセンター60カ所を運営。
- ・ www.alzheimers.org.uk（本部はロンドン市内）
- ・ 国際アルツハイマー病協会本部もロンドン市内にあり、同協会と連携

スライド18

協会の提供するサービス

- ・ 「ヘルプライン」という電話相談サービス（月曜～金曜の8:30～18:30）：専門的な訓練を受けたアドバイザーが相談に応じる。
- ・ インターネットによる相談も原則として24時間で受付し、24時間以内に回答を行っている。
- ・ 各地域でのデイケアセンター（30カ所）、訪問サービスセンター（60カ所）の運営。

スライド20



左側が月曜日から金曜日のアルツハイマーヘルプラインという電話相談です。
右側がインターネットによる相談で、メールで返事するようなことも行っています。

【スライド-21】

これは、英国最大のスーパーマーケットチェーンであるTESCOのお店ですが、このように各スーパーマーケットでイベントを行って、アルツハイマーの協会に寄付しています。

【スライド-22】

これがデイケアセンターで、ロンドンの郊外にあります。

【スライド-23】

この施設の中で、サッカーゲームなどでもできます。写真の方は痴呆患者さんではなく、スタッフです。お歳は80だそうです。

【スライド-24】

次にオーストラリアの現状です。

【スライド-25】

オーストラリアのシドニーにあるニューサ

スライド21



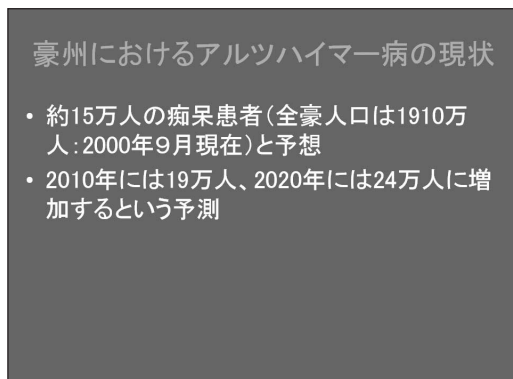
スライド22



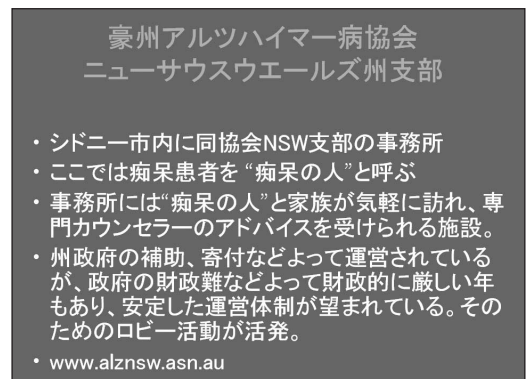
スライド23



スライド24



スライド25



ウスウェールズ州の支部を取材しました。

【スライド-26】

このシドニーの支部事務所の中に、アルツハイマーの患者さんが家族とともにいらっしゃって、ここで食事の作り方などを、看護婦さんや専門職の方が教える施設があります。

【スライド-27】

これは英国と同じような電話相談です。

【スライド-28】

シドニーでは、特に痴呆ケアを専門とするハモンドケアという高齢者の施設を見学しました。

右の写真は、家族の方が入居している痴呆患者さんのところと一緒にお茶を飲みに来ているところで、キッチンでお茶の準備をしている風景です。

【スライド-29】

実はこのハモンドグループというのは、痴呆症サービス開発センターという研究所を持っており、高齢者施設の設計まで行っています。

下部の施設の見取図のように、キッチンを中心に各入所者の個室などがあります。オーストラリアではキッチンが家庭の中心部で、痴呆の患者さんが、迷ったら真ん中に戻られるよ

スライド 26



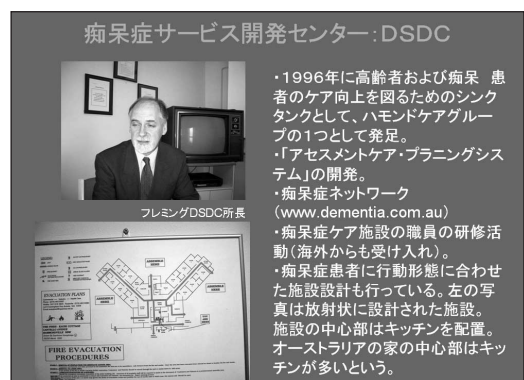
スライド 27



スライド 28



スライド 29



うな設計が多いのですが、こうした施設の設計を、痴呆ケアの専門の研究所がやっているわけです。

【スライド-30】

続けて日本の現状です。

【スライド-31】

呆け老人をかかえる家族の会も非常に歴史があり、1999年に保健文化賞などを受賞するほど活発な活動をしています。

【スライド-32】

スライドに記載したような活動をやっており、2004年には京都で国際アルツハイマー協会の国際会議を主催するそうです。

【スライド-33】

右が代表の方で、左は老年医学専門のドクターです。

【スライド-34】

海外の協会と同様な電話相談「ぼけの電話相談110番」を行っています。

【スライド-35、36、37】

この協会のホームページを見ますと、世代を超えて痴呆症を理解してもらうという、ユニークな活動を行っています。

架空の家族を描いたものですが、お婆さ

スライド33



スライド30

日本の痴呆患者の現状

- 1990年:100万人
- 2000年:156万人
- 2020年には65歳以上の人口が25%に達するしたが、痴呆患者数も増加し、約300万人に達すると予測。

スライド31

呆け老人をかかえる家族の会

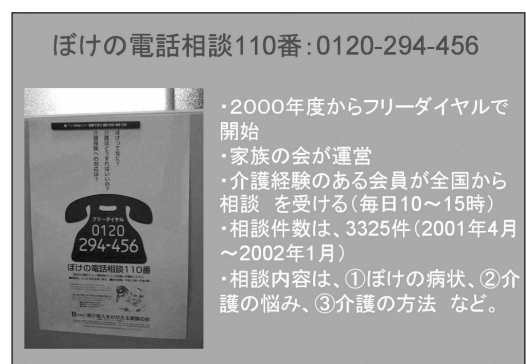
- 1980年、京都市で発足した痴呆に関わる当事者を中心とした全国的な唯一の民間団体。
- 全国40都道府県に支部を持ち、会員数は6800名。国際アルツハイマー協会に加入(国際名:日本アルツハイマー病協会)。
- 1999年度保健文化賞、朝日社会福祉賞受賞
- www.alzheimer.or.jp

スライド32

呆け老人をかかえる家族の会の活動内容

- 家族の集い、
- 会報月刊『ぼーれぼーれ』の発行
- 電話相談(ぼけの電話相談110番)
- ぼけ老人と家族への援助をすすめる全国研究集会
- ぼけに関係した調査・研究、
- 厚生労働省や自治体などへの要望、
- 国際交流(2004年国際アルツハイマー病協会第20回会議の開催準備)
- 啓蒙活動、介護セミナー
ーなど

スライド34



んが財布が無くなったと言って、お嫁さんに「あんたが取ったんだらう」と文句を言う。そこで、子供も交えた三世代で、痴呆が進行してきたお婆さんへの対応を考えてもらうというような内容です。

【スライド-38】

これら各国の比較を、次のようにまとめました。

やはり米国が一番活発で、財源もあるようです。

【スライド-39】

アメリカのアルツハイマー患者さん専門のインターネットのホームページで、このようなホームショッピングをみかけました。

【スライド-40】

これは、アルツハイマーをカミングアウト

スライド 35



スライド 36



スライド 37



スライド 38

まとめ1: 各国のアルツハイマー協会の現状

	日本	英国	豪州	米国
財政状況	改善の方向	やや余裕あり	行政補助減り厳しい	潤沢
広報活動	支部の活動を含め活発	国際組織の中心的存在	セミナー等啓蒙活動活発	非常に活発
自立性	社団法人	NPOの利点が生きる	財政基盤が不安	財政安定し自立性大

スライド 39



スライド 40



したレーガン大統領と俳優チャールストン・ヘストンです。

最後に、私ども医療ジャーナリスト懇話会の活動をご紹介しながら終わらせていただきます。

来たる11月29日に「美しく老いる」というテーマで、日野原 重明先生をお呼びして、先生の91年の歩みのありつたけを話していただこうと思っています。先生は今、75歳以上入会の「新老人の会」を主催しておられますが、近々、80歳以上、つまりもっとオールドの会をやり、元気な老人をどんどん増やしていこうという活動をなさっているそうです。29日の会では先生の講演をはじめ、尺八のコンサートもありますので、ご興味がございましたら、ご参加下さい。

私ども医療ジャーナリストの自主的な勉強会の活動に対して、ファイザーヘルスリサーチ振興財団より研究費助成をいただき、有意義な調査研究ができたと自負しております。どうも有り難うございました。

質疑応答

Q： タイトルで「調査比較」とありますので、一言で構わないのですが、4つの国の違いを教えてください。

もう一つは、日本のネットワークでの今後の課題はどんなことなのでしょう。痴呆を支えていく、あるいは自分達と同じ存在だということを、世の中一般にアピールしていくことは、非常に大事です。その際に先生方ジャーナリストやマスメディアが持っている責任は非常に大きいと思うのです。

A： 時間の都合で、4ヶ国の比較をかなり省略してしまいました。済みません。

アメリカは、やはり資本主義の世界だけあって、寄付金集めをうまくやりながら自主的に財源を得ている。また、NIHから予算が結構出ていますので、国家的なプロジェクトでもあると思います。それとレーガン元大統領自身がカミングアウトするという国ですから、非常にマルチに対応している。つまり、政府もやるし民間、それから企業もうまく自分のところの宣伝もしながら、そこに関わっていくというやり方がアメリカ型です。

英国は、先ほど発表しました比較研究にもありましたように、ブレア政権になり、かなり民活の動きがあって、先ほどのデイケアセンターを運営するような形で、自分達で財源も稼ぎながら運営していくというようになってきました。このように英国も非常に変わっています。

比較的日本にとって参考になると思えるのがオーストラリアです。オーストラリアも医療制度は日本と同じような公的医療保険で、なおかつ多少民間の部分もある。例えば、高齢者ケアについては、ハモンドケアグループのような高齢者ケア施設が、高齢者施設運営のノウハウを他の施設に売って、そしてまた施設の運営を引き受けると

いう形です。

日本は、介護保険では痴呆のケアについて（抜けているという表現はおかしいのですが）遅れているので、呆け老人をかかえる家族の会などのNPOをうまく活用しながら、同時に政府が財政面からそれらNPOを支えていくことが必要ですし、我々メディア関係者も、痴呆問題について世間に広めていくことが必要と考えます。それと共に、自分達の子供・孫にも、お爺ちゃん、お婆ちゃんはこの人生を送ってきたんだということを伝える活動も、メディア関係のみならず、医療関係者・ケア関係者も必要ではないかと思いました。